

“平時の備え”と迅速な判断

—現地と日本との総力を挙げた復旧作業



Canon Hi-Tech (Thailand) Ltd. (CHT)

副所長 経理／企画／IT担当 柴垣力也

洪水時の航空写真（工場全景）

2011年の洪水はタイ王国中部を中心に発生し、ほぼ全土に被害が広がった。日系企業が多く入居するアユタヤ県でも工業団地が冠水し、工場が操業停止となるなど長期にわたって洪水に見舞われ、Canon Hi-Tech (Thailand) Ltd. (以下 CHT) も多大な被害を被る結果となった。本稿では、当時の CHT の行動や対策、今後の洪水に向けた取り組みなどを述べていきたい。

迅速な判断と先手の対応

2011年10月に発生したタイの洪水により、インクジェットプリンターの主力生産工場である CHT ハイテク工場は、洪水の危険が近づいた10月6日には操業停止を余儀なくされた。10月13日には洪水はハイテク工場のあるハイテク工業団地を襲い、押し寄せた水は2メートル余りの水位にも達した。その後約6週間にわたって工場は汚水、泥水につかり、成形機、実装機などの生産設備も冠水した。また、電気、水道といったライフライ

〈タイ現地法人概要〉

名称：Canon Hi-Tech (Thailand) Ltd.
生産品目：インクジェットプリンターおよびスキャナー、プリンター用紙
設立：1990年
・1991年：ハイテク工場(アユタヤ県)操業開始
・2011年：ラチャシマ工場(ナコーンラチャシマ県)操業開始

■生産拡大に伴って、組立工程だけではなく、プラスチック成形/プレス/PCB実装の生産、プラスチック成形用金型製作機能も持ち、現地での内製充実や技術力強化を推進中。

ンも寸断され従業員は通勤不能となった。

工場の現場は^{さんたん}惨憺たる状況であったが、もちろん水が押し寄せるまで、ただ手をこまねいていたわけではない。そのような状況下であっても、早期の生産再開を見据え、先手先手で今できることは行っておくということで、待ったなしの判断と行動が必要であった。

有効だった主な対応としては、①ハイテク工場には2階建ての建屋があり、部品や根の生えていない(動かすことのできる)重要装置、ITサーバーを事前に1階から2階に移動、②治工具類はコンテナに積んで安全な地域で保管、③サルベージ業者へいち早く依頼し、水没した金型を救出、④浸水直後からインフラの1つとしてジェネレーター(発電機)などの手配を早め実施し、復旧と操業再開に向けて準備、などが挙げられる。

また非常に心強かったのは、生産増強に向け計画していた新工場(ラチャシマ工場)が操業間近であり、そのラチャシマ工場は、洪水の心配のない地域にあったことである。結果的には、タイに2つの生産拠点を持つことで、洪水リスクの分散が可能となったのである。

早かった復旧への準備開始

洪水は周辺の多くの工業団地にも達した。主要な協力会社も被害を受け、部品供給においても深刻な事態となっていた。このようなサプライチェーンの混乱をはじめとする生産再開へ向けて